

## 「環境問題を考える会」2023年度 (第26回) 総会&記念講演を開催!

2023年7月23日(日)下野市市民活動センター研修室において、環境問題を考える会の第26回総会を開催しました。今回で当会は設立以来26年目を迎えることができました。これまで活動を続けてこられたのは、ひとえに会員および関係者、市民の皆さまのご支援とご協力によるものであり、改めて御礼申し上げます。

総会では、ご多忙にもかかわらず出席いただいた坂村下野市長から祝辞と激励の言葉をいただいた後、前年度の活動報告と会計報告がされ、次年度の予算、世話人会役員および活動方針が提案されて、いずれも満場一致で承認されました。

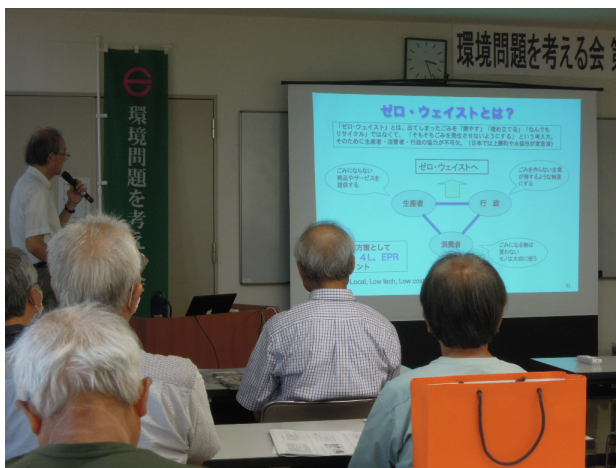
続いて行われた記念講演「市民の目線でゴミ問題を考える」では、まず当会の益子事務局員が「環境問題としての地域のごみ問題」と題して身近なごみ問題について講演し、次に当会の加藤世話人が「上勝町のゼロウェイスト視察報告」と題して、ごみ対策の先進地である徳島県上勝町の視察結果を紹介しました。講演内容の詳細は次頁を参照下さい。以下、総会と記念講演の状況を写真で紹介します。



総会開会の挨拶をする中里代表



祝辞の挨拶をされる下野市の坂村市長



地域のごみ問題に関する講演(益子事務局員)



上勝町のゼロウェイスト視察報告(加藤世話人)

## 記念講演：市民の目線でゴミ問題を考える

◎以下は講演内容の要旨です。講演資料をご希望の方は当会事務局まで連絡下さい。（部数に制約あり）

### 環境問題と地域のごみ問題

（環境問題を考える会事務局 益子友幸）

ごみの発生は人間の活動の結果であり、放置すれば人間の棲息環境を確実に汚染・悪化させるので、ごみ問題は典型的かつ最も身近な環境問題です。

下野市を含む小山広域のごみ排出量はH29年度以降は78,000t付近で推移しており、R2年度の内訳を見ると、燃やすごみが全体の77%を占めています。現在建設中の新設炉（180t/日）が完成すると焼却能力は60,000t/年→69,000t/年になりますが、災害ごみの受け入れ等（13,000t/年）を差し引くと、焼却能力は年間56,000tが限界と言われています。そのため2018年度比で2027年までに燃やすごみを5,000t削減する必要があります。

上記の重点方策として、小山広域組合では、指定ごみ袋制（燃やすごみ限定）の導入を計画しています。それは市場価格での指定袋なので市民の費用負担は増えないと言われていますが、それで減量化の効果があるのかとの意見もあります。そこで私が公募委員として参加した廃棄物減量化対策推進検討会では、意識向上のため燃やすごみの名称を「燃やすしかないごみ」に変更するよう提案し、採用されました。実は家庭ごみの燃やすごみ内訳を見ると、資源物（プラ容器、雑紙、古布）が2割も混入しており、これを正しく分別すれば削減目標は余裕で達成できるのです。

ごみ対策の「3R」には優先順があること（リデュース>リユース>リサイクル）に注意する必要があります。リサイクルはやむを得ない下流の処理であり、リサイクルだけでごみは減りません。より上流での発生抑制や再使用を進める必要があります。その決め手となるのが「拡大生産者責任=EPR」です。それは生産者が廃棄後の処理まで責任を持つことで、その費用は製品価格に上乘せし、それを買う消費者が最終負担者になる仕組みです。それにより廃棄物処理コストは税金負担から消費者負担に変わるため、ごみになり易いものは市場原理で淘汰されることになります。

いま、世界中でマイクロプラスチック（MP）による海洋汚染が深刻な問題になっていますが、海洋だけでなく、大気や水にもMPが拡散しており、人工芝はMPとPFAS（有機フッ素化合物）の発生源になることも指摘されています。このため海外ではプラスチック製品の規制や削減が進んでおり、日本でも2022年4月から「プラスチック資源循環促進法」が施行されました。今や、自治体は容器包装に限らず全てのプラスチックを再資源化することが求められています。それと共に、市民も含めて何でもプラスチックに依存する生活を見直す必要があります。そのために、マイバッグやマイボトルの活用等、まずは市民にできることから始めてみませんか。

### 上勝町ゼロウェイスト視察

（環境問題を考える会世話人 加藤好雄）

上勝町は徳島県中央部の山間地にあり、四国の中で人口が最少（現在約1,400人）の小さな町で、ゼロウェイスト以外に「つまもの」と呼ばれる葉っぱビジネスでも知られています。その上勝町は2003年に日本初の「ゼロウェイスト宣言」を行い、2020年までに焼却・埋め立てごみをゼロにするとの目標を立てました。その背景には、町内に2基あった小型ごみ焼却炉がダイオキシン問題で使えなくなり、容器包装リサイクル法の施行を契機に焼却炉を閉鎖し、同時にごみ分別を積極的に導入してごみゼロを目指したことがあります。その宣言は「自治体に過度のごみ処理負担を課す現状を見直し、国が法律で事業者の拡大生産者責任を明確にするよう求める」先進的なものでした。

上記目標を達成するため、上勝町は住民の理解と協力を得て考えられる方策を次々と実行しました。主な例として、NPOゼロウェイストアカデミー発足、リユース推進拠点「くるくるショップ」開設、リメイクショップ「くるくる工房」開設、リユース食器の無料貸し出し、ポイントキャンペーン、生ごみ堆肥化の全戸普及、事業者のゼロウェイスト認証制度、等々。この間、市場の変化に伴って分別数は増加し、当初の34分別から現在は45分別になっています。町は行政回収を行わず、住民が町の中央にあるゼロウェイストセンターに排出ごみを搬入して分別し、可能なものは全て資源化しています。この結果、上勝町のリサイクル率は2016年に最大81%と全国でもトップレベルを達成しました。しかしその後は横ばい状態で、約2割のごみが焼却・埋め立て（外部委託）になっています。その内容はゴム製品、複合素材品、衛生用品です。

2020年にごみゼロを達成するという上勝町のゼロウェイスト宣言は目標未達ということですが、それでも上勝町の果敢な挑戦と努力、その実績は賞賛に値すると思います。上勝町はこの間の経験と実績を踏まえ、2030年までの重点目標を新たに掲げて再びゼロウェイストを宣言しました。

上勝町の挑戦はゼロウェイストが容易には達成できないこと、その理由を明らかにした点でも有意義であったと言えます。それは3Rのうちのリサイクルだけでごみは無くせないこと、ごみゼロを達成するには2R、特にごみの発生抑制（方策として拡大生産者責任の徹底）が不可欠だということです。上勝町の手法には一部異論もありますが、取り組んだ各種方策には他の自治体にも参考になることが少なくありません。上勝町に続き、国内では福岡県大木町、熊本県水俣市、奈良県斑鳩町、福岡県みやま市の4自治体がゼロウェイストを宣言し、その取り組みを続けています。

## 戦争こそは最大の環境破壊！

# 「小金井空襲慰霊祭」に参加！

戦争は最大の環境破壊であり、環境問題として再び戦争を起こさない取り組みが必要です。それには悲惨な戦争体験を語り継いで行かねばなりません。1945年7月28日、既に米軍が占領した硫黄島より飛来したP51戦闘機が宇都宮から東北線上り列車を追尾し、小金井駅周辺で機銃掃射を行いました。その結果、戦没者の慰霊を迎えるため駅に集まっていた民衆と列車の乗客が犠牲になり、31名の死者と約80名の負傷者を出す惨事になりました。

この悲惨な地域戦災を語り継ぐため、市民ボランティアによる慰霊祭がコロナ禍での中断を経て3年振りに以下の通り開催されました。当日は唯一の生き証人・梁昌子さんや犠牲者の遺族の方々、坂村市長も参列され、当会の有志も多数参加しました。

日時 2023年8月28日（日） 9時半～12時

場所 JR小金井駅西口 平和の礎前（右上の写真参照）

主催 小金井空襲慰霊祭実行委員会（会長：星野平吉氏）

備考 慰霊祭の後に交流会を実施（オアシスポップ館にて）



# 「市民活動センターまつり」に参加出展！

2023年10月15日（日）市民活動センターまつり2023が開催され、同センターに利用登録している27の団体と個人が参加出展しました。環境を考える会も登録団体として参加し、屋内会場にて各種展示を行いました。

当日の午前中はあいにくの雨模様でしたが、開始早々から会場には多くの市民が来場、当会の展示コーナーにも多数の来場者があり、会の活動PRや地域市民との交流をはかることができました。

以下、概要を紹介します。詳細は当会ホームページを参照下さい。

日時 2023年10月15日（日）10時～14時

会場 下野市市民活動センター&GTコミセン

主催 市民活動センターまつり実行委員会

環境問題を考える会の出展内容

- ・パネル展示（団体紹介、活動事例紹介）
- ・参考資料展示（ごみ問題、水道水問題、原発問題、他）
- ・ごみ分別クイズ

恒例のごみ分別クイズは例年にも増して盛況で、分別ルールやその合理性を巡る議論も大いに盛り上がりました。（右の写真参照）



ごみ分別クイズのコーナー

# 「原発をとめた裁判長」自主上映会を開催！

宇都宮市内で毎年開催される「さようなら原発！栃木アクション」のプレ企画として、ドキュメンタリー映画「原発をとめた裁判長」の自主上映会が県内各地で企画され、下野市地区では当会が10月29日（日）にこの上映会を開催しました。2014年に福井地裁で大飯原発の運転差し止めを命じる判決がありました。それは福島原発事故後に初めての原発を止める判決であり、この映画はその判決を下した樋口英明裁判長（当時）を追跡したものです。以下、概要を紹介します。

日時 2023年10月29日（日）14時～16時半

会場 下野市石橋公民館 会議室5

上映作品「原発をとめた裁判長～そして原発をとめる農家たち」

監督/脚本 小原浩靖

主催 環境問題を考える会

後援 さようなら原発！栃木アクション

樋口元裁判長からは「福島原発事故を経験し、原発の本当の危険性を知った私たちの責任は極めて重い。後に続く人々のために、これ以上『負の遺産』を増やしてはならない」とのメッセージを頂きました。



会場は65名の参加者で満杯でした

# 「さようなら原発！栃木アクション2023」に参加！

福島原発事故の後、県内でも下野市議会を含む多くの市町議会が「脱原発のエネルギー政策を求める意見書」を採択し国に提出しました。しかし、いまだ3万人が避難生活を強いられる中で、各地の原発が再稼働され、原子力緊急事態宣言はいまだに解除されないまま、老朽化した原発の稼働延長や原発の新增設が画策されています。福島原発に溜まり続ける放射能汚染水はALPS処理でも除去できないトリチウムを含んだまま海水で薄めて海洋投棄されていますが、問題は薄めた濃度ではなく、今後いつまで放出し続けるかわからない放射性物質の累積総量とそれによる海洋生態系への影響です。

このような背景の下、全ての思想・信条・世代を越えて「脱原発」の一点で県内各地の市民が集結し宇都宮市内をパレードしました。下野市からも当会有志を含め多くの市民が参加しました。以下、概要を紹介いたします。詳細は当会HPを参照下さい。



シンボルロードから大通りへ右折する参加者

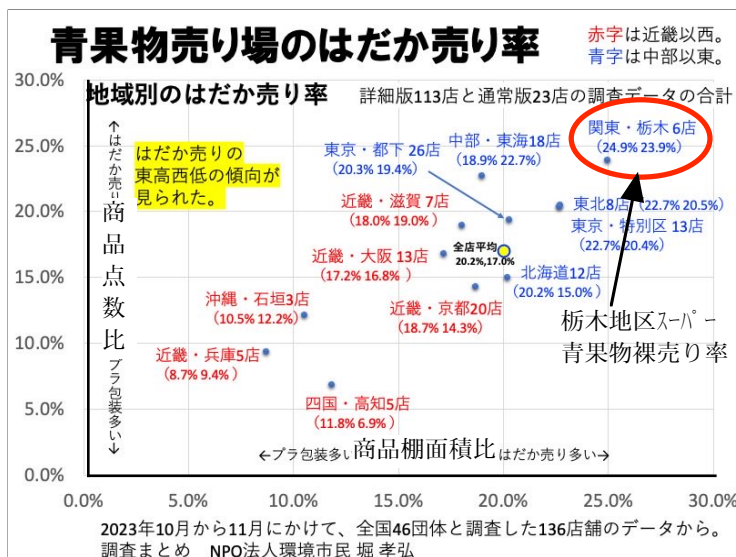
- 日程 2023年11月18日（度）13時～15時
- 集合場所 宇都宮城址公園
- ゲストスピーチ 満田夏花さん（FoE Japan 事務局長）
- パレードコース 宇都宮城址公園～シンボルロード  
大通り～宮の橋（流れ解散）
- 参加者 約700名
- 主催 さようなら原発！栃木アクション

# 「全国スーパーマーケット環境対応調査」に参加！

当会は「容器包装の3Rを進める全国ネットワーク」に参加し、家庭ごみの6割を占める容器包装廃棄物の削減に取り組んでいます。2023年10月、上記ネットワークと全国スーパーマーケット環境調査実行委員会から全国スーパーの環境調査への参加呼びかけがありました。それに呼応して当会は県内大手スーパーチェーン本部の協力を得て下野市内の各スーパー店舗を訪問し、店舗内の環境対応（プラ容器包装の削減、その他廃棄物減量化等の取り組み）を調査しました。以下、調査結果の概要を紹介いたします。詳細は当会HPを参照下さい。

調査日 2023年11月27日～11月30日  
調査店舗 市内スーパー3社の自治医大店  
調査事項

- ・資源物の改修ボックス
  - ・青果物売り場の裸売り（無包装）状況
  - ・上記以外の裸売り（無包装）状況
  - ・その他廃棄物減量化や省エネの取り組み
- 結果の要点
- ・全国の集計結果によると、青果物売り場の裸売り率は栃木地区（小山市、下野市）のスーパーが全国でもトップレベルだった。
  - ・地場産や有機野菜の売り場、リユース皿での刺身盛りつけ、賞味期限間近品の特売、アルミコーティング紙パックの回収再資源化等、各社とも販売店として独自に取り組んでいる。



**会員募集中！**「環境問題を考える会」では広く会員を募集しています。

地域の環境を大切にしたいと思う皆さん、是非ご参加下さい。

- 年会費：1,000円
- 払込先：郵便口座番号 00160-1-139315
- 問い合わせ先（事務局）

磯辺 ☎0285-44-6621 / 平戸 ☎0285-44-5280 / 益子 ☎0285-44-6891

E-mail : kankyomk@ja2.so-net.ne.jp

Homepage : <https://kankyomk.wordpress.com>



公式HP